

議 事 概 要	
会議の名称	令和5年度第2回長久手市地域保健対策推進協議会
開催日時	令和6年3月14日（木）午後2時から午後3時30分まで
開催場所	保健センター3階 会議室
出席者氏名	<p>委員</p> <p>口野 孝典（長久手市スポーツ推進委員代表） 川本 さつき（長久手市社会福祉協議会会長） 中村 利男（自治会連合会長・区長会長代表） 成定 明彦（愛知医科大学産業保健科学センター代表） 横井 英臣（市内歯科医師代表） 横山 智絵子（市内医師代表） 吉田 佳都子（食と健康を考える会代表） 原口 浩美（愛知県瀬戸保健所健康支援課長） 近藤 高明（学識経験者 修文大学教授） 廣中 省子（公募委員）</p> <p>事務局</p> <p>福祉部長 川本 満男 健康推進課課長 遠藤 佳子 同課課長補佐 諸戸 洋子 同課健康増進係係長 近藤 小百合 同課母子保健係係長 今村 知美 同課母子保健係主任 永井 佑未子 同課健康増進係主事 川合 主真</p>
欠席者氏名	<p>森下 雅史（公立陶生病院小児科医師代表） 安藤 京子（長久手市教育委員代表） 篠畑 径代（公募委員）</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴者人数	なし
審議の概要	<p>第1 健康推進課事業報告について</p> <p>1 健康づくり事業 2 成人保健事業 3 母子保健事業 4 予防接種事業</p> <p>第2 健康づくり計画（第3次）策定について</p> <p>1 アンケート調査結果報告 2 健康づくり計画（第2次）最終評価</p>
問合せ	長久手市福祉部健康推進課（保健センター） 電話 0561-63-3300
備考	

1 会長挨拶

近藤会長より

2 議題

第1 健康推進課事業（令和5年度実績および令和6年度計画）について

1 健康づくり事業

事務局説明

資料に基づいて説明

2 成人保健事業

事務局説明

資料に基づいて説明

質疑応答・意見等

委員

資料 1-1 にある脳ドック検診費助成事業の内容について教えてほしい。

事務局

事業の内容は、職場等で脳ドック検診の受診機会がない、又は受診費用の助成がない40歳以上の方に対して費用の7割、上限15,000円を助成している。令和4年度は123名実施している。

委員

どのような手続きをすれば良いか。

事務局

健康推進課に電話や窓口で申し込みをし、受診券を受け取った後、医療機関で受診をしてもらう。

委員

5ページのがん患者補整具購入費助成金交付事業と若年がん患者在宅療養支援事業について、医療機関との連携を行っていたら教えてほしい。

事務局

令和5年度から開始した若年がん患者在宅療養支援事業は、愛知医科大学病院看護部にあいさつに伺い、事業の実施内容や利用が想定される方がいるか等、意見交換を行っている。現在、長久手市の申請件数は0件である。近隣市町では、1~2件ある所と0件の所があった。

委員

1ページの領域別課題にある食事の領域について、健康講座で朝食づくり講座とあるがフレイル予防として実施しているものであるか。

事務局

朝食講座については、フレイル予防とは違い小学生の親子向けに実施している。フレイル予防は高齢者の方に向けて実施しているものになる。

委員 フレイルについてよく言葉は聞くが、内容についてあまり知られていない気がする。周知についてはどのように行っているか。

委員

フレイルというのは、健康な状態と要介護状態の間で、可逆性のある状態のことである。健康推進課では、全年齢の健康づくりを推進しているが、長寿課や保険医療課で高齢者の保健と介護予防の一

体的な推進という事業をしており、高齢者の方により健康に過ごしていただけるよう取組を行っている。

委員

5 ページにある歯科健康教育について、市内の保育園児に行っているが、小学生に実施する予定はあるか。

事務局

学校の中で指導があるとは思いますが、今後連携して取り組めることがないか検討していく。

3 母子保健事業

事務局説明

資料に基づいて説明

4 予防接種事業

事務局説明

資料に基づいて説明

質疑応答・意見等

委員

こども家庭センターの設置が4月から行われるが、職員構成や仕事内容等について伺いたい。

事務局

こども家庭センターの内容について、母子保健部門とこどもの虐待や子育て支援を行っている部門が連携していくものになる。あとは、子育て施策ということで地域資源の開拓をすることとなっている。現在は、部を超えての連携をしているが、こども家庭課と母子保健係が同じ部の中で一緒になることで、連携強化をしながら子育て支援を実施していくものになる。母子保健係は、保健センターからこども部と同じ市役所2階へ移動することで連携を強化していく。

委員

こどもの発達相談室は、こども家庭センターに入るのか。また、こども家庭センターは市役所内にあるものなのか、子育て支援センターのような建物はあるのか。

事務局

発達関係は別になる。虐待や子育て支援を行っているこども家庭課の家庭係と母子保健係の業務を一体的に行うものがこども家庭センターとなる。場所については、こども家庭センターという建物があるわけではなく、こども家庭課の中にこども家庭センターという機能を設置する。

委員

子どもの相談をするのにどこに相談して良いか分からないという声をよく聞く。こども家庭センターが出来るのは良いことだが、どこに何を相談したら良いかという周知を上手く行っていただければと思う。

事務局

相談窓口については、地域の子育て相談事業を民間の子育て団体のNPOに身近な相談窓口になってもらう委託を来年度予算計上しているので、市役所以外でも相談が可能であり、委託先と連携をしていく予定。

第2 健康づくり計画（第3次）策定について

1 アンケート調査結果報告

事務局説明

資料に基づいて説明

2 健康づくり計画（第2次）最終評価

事務局説明

資料に基づいて説明

質疑応答・意見等

委員

食事の領域の指標について、達成できていないものが目立つ。達成できていないものについてどのように取り扱っていくか。

事務局

食事の領域について、20～30代や小中高生を指標として朝食の欠食率が下がるよう取り組んできたが、全年齢で毎日朝食を食べる割合が減ってしまった。これは、社会情勢や生活習慣の変化が影響しているのではないかと分析している。食事についてのアンケート結果から、特に若い世代で食に対する意識の希薄化が見られたので、若い世代へのアプローチが必要だと課題感を持っている。

委員

健康寿命について、長久手市は愛知県と比べて良い結果が出ており、長久手市の事業が上手くいっているのではないかと思う。

また、小学生があまり食べないという事例や、ゲーム等で夜更かしをしまい授業中に居眠りをしてしまう事例がある。学校等にも課題はあると思うが、こういった部分に対処できると良いと思う。

委員

食事の領域について、30代の朝食欠食率の低下はコロナの影響と記載されているが、コロナが原因だったのか。

事務局

正確な原因は分からないが、コロナ禍で生活習慣が変わったことも影響しているのではないかと考えている。愛知県のアンケート結果では、若い世代では、「朝起きられないので食べられない」といった回答が多く、中高年になると「食欲がないので食べられない」という回答が多い結果であった。コロナによる生活習慣の変化や、ゲームやスマホ等で就寝時間が遅くなっている等、睡眠も含めて生活習慣の影響が朝食に出ているのではないかと考えている。

委員

欠食率の多い年代が働く世代となっているので、会社とコラボレーションをして対策をしていくことが必要だと思う。東海市が、会社と協力をして事業を行っていると聞いたので、長久手市も是非実践してほしい。

委員

食事の領域について、地域保健・職域保健連携推進事業でも働く世代へ早めにアプローチしておくことで、地域保健に戻ってくる方の健康づくりにつなげるというものがある。第3次健康づくり計画も地域保健と職域保健の連携を意識して作成してほしい。

(午後3時30分終了)